



導入事例

株式会社みずほコーポレート銀行

ペーパーレスが 行内のワークスタイル変革の第一歩



『ペーパーレス化で業務効率の向上とワークスタイルの変革』を中期的な目標に掲げ、以前から取り組んでいた業務文書の電子化をさらに進めることは、紙文書の運用にまつわる課題の解決法でした。

✓ ペーパーレス化で業務効率の向上と ワークスタイルの変革を

2006年6月、みずほコーポレート銀行様では、組織体制の刷新や全行的な業務プロセスの改革を進めていた時期でありました。IT・システム統括部においても「業務効率の向上とワークスタイルの変革」を中期的な目標に掲げ、新たなIT施策への取り組みを開始しました。

部内でさまざまな議論を重ねた結果、「ペーパーレス」というコンセプトにたどり着きました。当時の様子について、IT・システム統括部 統括チーム 調査役の三木裕美子氏にお話を伺いました。

「業務効率の向上とワークスタイルの変革を実現するために、以前から取り組んでいた業務文書の電子化をさらに進めることになりました。それは、紙文書の運用にまつわる課題の解決法でもありました。」

議題の1つは、月2回以上開催される同部主催の役員会議で使用膨大な会議資料の印刷や準備などの作業負担でした。これまで、役員会議を開催するたびに、事務局が1セット80枚のA3コピー用紙を20人分(およそ1600枚)、予備分を含めて合計約2000枚を印刷し、会議参加者に配布していました。

さらに、役員会議は丸の内の本店内で開催されるため、事務局の担当者は2000枚の会議資料をキャリーケースに入れて本社に搬送しており、搬送時の情報セキュリティ上のリスクがありました。また、会議開始の直前まで資料の差替えが発生することもあり、事務局の負担となっていました。

✓ もう紙資料の会議には戻れない

これらの課題を解決するために、三菱電機コントロールソフトウェア(MCR)の電子会議システムと、ワコムの17インチ液晶ペンタブレットを入力操作デバイス兼モニタとして導入することを決めました。2006年10月に、同行の本店内会議室にプロトタイプが設置され、トライアル運用を経て、12月より本利用が始まりました。運用開始後3年半が経過した現在に至るまで、大きなトラブルもなく、安定した運用がなされています。

本システムを導入した効果は大きく分けて2つあります。

✓ コピー用紙の使用量は導入前の約1/5まで削減、 事務局の作業負担も大幅に軽減

まず、経営会議の運営にかかる労力/コスト面です。ペーパーレス化によって、2000枚もの会議資料の印刷や、セキュリティ上の問題を抱えていた本社への搬送、参加者への配布といった作業が不要になり、事務局の作業負担とコストが大幅に削減されました。ちなみに、同部が導入後に実施した調査によると、役員会議におけるコピー用紙の使用量は、導入前の約1/5にまで抑制されました。現在、電子会議システムが設置された本店の会議室では、IT・システム統括部主催も含め3つの役員会議が定例で開催されるほか、部長会議・行内研修・顧客向けセミナーなど、幅広い用途で活用されています。



また、会議資料の登録や権限設定などの管理操作が容易であることに加えて、液晶ペンタブレットを入力操作デバイス兼モニターとして利用することで、初めてシステムを利用する人でも、資料のページめくりをはじめとする操作すべてを画面上に直接ペンで行えます。さらに資料へ直接手書きでメモを取ることもできます。誰もが簡単に使えるので、利用者からの評判は非常に良いそうです。

「導入前は、紙の会議資料が配られなくなったことに対してネガティブな反応を示す役員もいるのではないかという心配がありました。実際には、導入後にそのような反応はなく、役員会議に初めて参加する新役員も含めて、迷うことなく操作しており、スムーズな会議運営がなされています。」

✓ 会議資料の文書作成スタイルを標準化し、資料作成時間を短縮

2つめは会議資料の作り方の見直しです。電子会議システムの導入と同時に、共通文書のフォーマットを、従来のA3横サイズ/Word文書ファイルから、A4横サイズ/PowerPoint文書ファイルに変更しました。これは、モニター画面上での資料の一覧性と文字の視認性を重視したためです。

「モニターのサイズはA3の半分以下と小さいため、PowerPoint

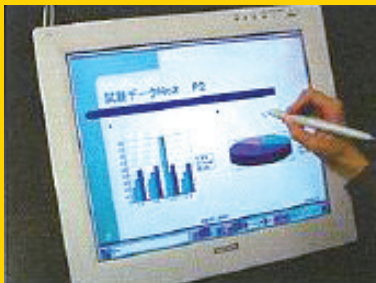
で一般的に利用されるA4サイズを採用し、文書作成スタイルを標準化する」というものです。会議資料を標準化することで、内容の理解のしやすさや資料作成時間の短縮といった効果が上がりました。さらに会議資料作成のノウハウが部内で共有化・ナレッジ化されることで、会議運営の効率化にもつながりました。

3年半にわたって電子会議システムを運用してきたみずほコーポレート銀行では、電子会議システムを定常的に利用する役員会議のメンバーからは「もう紙資料の会議には戻れない」といった声も挙がっており、ペーパーレスのカルチャーが着実に醸成されています。

三木氏は、最後に今後の取り組みについて次のように話してくださいました。

「IT・システム統括部としては、他部署の電子会議運営のサポートを継続するとともに、会議システム以外のペーパーレスソリューションの導入を通じて、そうしたカルチャーの下で実現される業務生産性の向上やワークスタイルの変革、セキュリティの強化といった効果を、行内全体に波及させていきたいです。」

みずほコーポレート銀行様では、今後も「業務生産性の向上やワークスタイルの変革」を目指して、ペーパーレス化への取り組みを進められて行かれるそうです。



MIZUHO

みずほコーポレート銀行

<http://www.mizuhocbk.co.jp/index.html>

2002年、みずほフィナンシャルグループ会社として創業。

当行は「みずほ」の「変革」プログラムのもと、グループ会社と連携して商業銀行業務とM&A・アドバイザー、債権・株式引受、セールス&トレーディング等の伝統的投資銀行業務を融合・教科することにより、「コーポレートファイナンスのトップランナー」として、国内外のお取引先のニーズに最適な金融ソリューションをグローバル、かつシームレスに提供しております。特に、日本と米国では、銀行と証券と担当者を兼職する体制を導入し連携を進めています。